

とらべつ

歴史余話

第17回

石狩川に熱い視線を 注いだ、幕末の水戸藩

東洋大学人間科学総合研究所
客員研究員

濱口 裕介

幕末の安政5年(1858)、石狩川河口を訪れた水戸藩士生田自弥之介は、こんな記録を残している。トーヘツフト(当別川河口)において同藩出身の漁民たちが漁小屋を建て、川ざらいをするなどして、来年の漁に備えている、というのだ。水戸藩の石狩川河口への進出を伝える貴重な記録である。

そもそも徳川御三家の水戸藩は、江戸の北東に当たる常陸国に城地を持っていたことから「我が藩こそ江戸の北の守りの要」という独特の意識を有していた。また、領内に拠点を持つ海運業者たちの箱館や松前への進出、さらに藩財政再建への期待もあって、近世後期になると蝦夷地への特別な関心が芽生えていった。

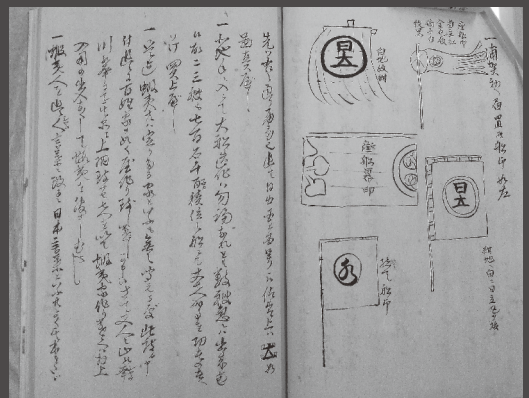
徳川斉昭が水戸藩主の座に就いたのは、そうした時期のことだった。天保5年(1834)、斉昭は藩政改革の一環として、松前藩支配下にあった蝦夷地の拝領を求め幕府への運動を始める。それが失敗に終わると、同14年(1843)からはイシカリ場所をゆずってくれるよう松前藩に直接交渉を試みるという方針に転じた。

この運動のさなか、斉昭は『北方未来考』という著作を著している。蝦夷地拝領が実現したら、どのように開拓を進めるかという構想を思いつくまに書いたものである。そこでは石狩川をさかのぼり、「勇威山」の東(馬追丘陵のあたりか)に築城し、蝦夷地全域を睥睨しようという構想を書き綴っている。単なる「夢物語」ともいえるが、この著作にお

いて蝦夷地に代わる名号として、「北海道」を提案しているのは注目に値する。松浦武四郎による北海道改号より30年も前のことである。

水戸藩の蝦夷地進出は実現に至らぬまま、時代は幕末の動乱期を迎える。その執念がついに結実する日がやってきた。幕府の許可を得て、水戸藩は領内の漁民らを石狩川河口地域に進出させ、まず鮭の引網漁に着手させることに成功したのだ。その際、冒頭で紹介したごとく、現在の当別町周辺も有力な漁場として注目されていたようだ。

しかし彼らが石狩進出を果たした安政5年は、安政の大獄が始まる年でもある。將軍継嗣問題や通商条約締結をめぐる政争の渦中にあった斉昭は大老井伊直弼による弾圧を受け、国許での蟄居中に没してしまった。藩による積極的な支援を得られなくなった水戸藩漁民たちの石狩進出は、さしたる成果を上げることなく幕を閉じたのである



『北方未来考』(茨城県立歴史館蔵)部分。徳川斉昭が案出した蝦夷地行き水戸藩船の幟旗

未完成でもいい、 舞台上に立って輝いてみる！

カ
ラ
ー
ズ
劇団 Colors 主宰
か
え
市川 華衣 さん



旗揚げ公演に向けて、町内各所で練習を重ねました。

ここに書ききれなかったエピソードは、当別町ホームページ内に新設した「現在プラスを+活きる」をご覧ください。



今回は、町民有志による「劇団 Colors」を立ち上げ、3月に旗揚げ公演を成功させた市川華衣さんにお話をお聞きしました。

人生の転機は社会人留学

横浜で生まれ育ち、東京の大学に進学し、そして就職しました。その後、北海道へ移ってから数年後に会社を辞め、イギリスのブライトンに2年間留学しました。

留学先では、英語を母国語としない人たちが通う語学学校に通い、ホテルのレストランなどでアルバイトをして生活をしていました。学校もアルバイト先も、様々な国の人たちがいて、生活や考え方が多様な人たちと過ごす中で、日本人である自分がとても自然に過ごすことができた2年間でした。

留学から戻り、結婚して当別で暮らすようになりました。当別で生活をしながら、何か自分にできることは無いかと考えたとき、英語を教えてみようと思い立ち、英語教室を開いている知人からメソッドを紹介してもらい、5年前に教室を開きました。

自己表現の場として

英語と演劇も根底は自己表現であると思います。英語教室でもクリスマス時期には子どもたちと英語劇をやったりしていました。

以前、コンテンポラリーダンスを習っていて、発表の機会があったのですが、その舞台が、映像を入れたり、俳優さんを入れてセリフを入れたり、幅広く取り入れたスタイルでした。始めはピースだったシーンに音楽や照明など、いろいろなものが加わって、一つの作品ができあがる経験がとても楽しく、いつの日か、自分でステージを作り上げてみたいと思うようになりました。

劇団を立ち上げて

劇団を始めようと思ったのは2年前から、実際に今回の公演の準備を始めたのは1年前からです。コンセプトは、「未完成でも良いので、今自分にできることをもって舞台上に立って輝いてみる。」

そこに至るまでに、いろんな環境の人が集まって一つの物を作る、その過程の中で、自分はこれ

でもいいのかな、ちょっとやってみようかな、そんな過程を踏んで、ステージに立ってみる、そういった経験ができる場所にしたいです。これは演者だけでなく、裏方のスタッフもそうです。そして、その輝きを出すことで、見ている人にも、「ああ、これでもいいんだ」と、背中を押してあげたいです。

今後やりたいことは

1つ目は、こちらは現在進行中ですが、スウェーデン王国レクサンド市と演劇を通じた交流をやりたいです。

2つ目は、町内のダンスのサークルや音楽をやっている方々などに舞台の中に入ってもらって、コラボレーションして作品を作りあげていきたいです。

劇団 Colors 表現ワークショップ

5/28 (土) 13:30 ~ 15:30
白樺コミュニティーセンター

参加費：500円
対象：小学5年生以上
申し込みは右の
LINEのQRから→

